シリーズ

市長との意見交換会「～市長と話そう！萩の医療のこと、中核病院のこと～」を開催

1月11日、「市長との意見交換会」を萩市総合福祉センター多目的ホールで開催し、市民約40人の参加がありました。市長と市民病院・都志見病院の両病院長が萩の医療の現状や課題、中核病院づくりについて説明を行った後、意見交換を行いました。

■市長

〇萩医療圏では医師の不足と高齢化が著しく、救急患者の受入等、医療体制が崩壊寸前で危機的な状況。

〇限られた医療資源を有効活用し、地域に必要な医療を提供し続けるには、既存の急性期医療を担う病院同士の統合が最も有効な手段。

〇地域の核となる病院ができることで、医師等を確保しやすい環境が整い、診療科が維持される等、市民にとって安心･安全な暮らしやすいまちになると考える。

■市民病院米澤院長

〇中核病院で二次救急を断らずに受け入れるためには、早い段階で1つの病院に集約する必要がある。一方で、統合を円滑に行うためには組織融合への配慮も必要。

■都志見病院亀田院長

〇萩医療圏の二次救急や診療科の維持は危機に直面している。医療従事者を確保するためには、中核病院による新たな医療体制の構築が必要。

参加者からの主な意見

〇中核病院づくりを進め､医療の充実を図ってほしい。市外の病院で手術をしても、術後の治療は中核病院で受けられるようにしてほしい。

⇒高度な治療が必要な場合、市内に専門医がいないため､山口大学等と連携を取り､治療してもらっている。治療後は両病院でも継続治療を行っており、中核病院でも引き続き医療連携を図っていきたい。

〇在宅につなげるための地域包括ケアや緩和ケア、リハビリテーション機能を設けてほしい。また、放射線治療が萩で受けられるようにしてほしい。

⇒専門医の確保や採算性等課題は多いが、需要も増えてきており、検討したい。

〇地方独立行政法人のトップとなる人が決まらなければ、具体的な話が前に進まないのでは。

⇒できるだけ早く決めたい。

〇感染症対策や災害拠点病院について検討してほしい。

⇒感染症対策は県等の関係者と議論し、しっかりと考えていきたい。災害拠点病院についても、より一層機能の充実を図りたい。

〇多額の経費がかかる病院経営を地方独立行政法人という運営形態で支えられるのか。税金が高くなり、住みにくくなるのではないか。

⇒多額の経費がかかるからこそ、地方独立行政法人による効率的な経営が必要と考える。

〇地方独立行政法人化後も、経営に無駄がないか検証してほしい。

⇒地方独立行政法人になれば、より経営的な発想が持ち込まれる。法人として、しっかり検証を行う。

〇3月に市長選があるが、市長が交代した場合、中核病院の計画はなくなってしまうのか。

⇒市長が交代した場合、新しい市長の判断に委ねられることになるが、この中核病院の問題は一刻の猶予もなく、議論を進めなければ萩市の医療崩壊につながりかねない事態である。

〇特定健診等の予防医療をもっと充実させるべき。

⇒「中核病院の基本的な方向性」の中にも予防医療を掲げており、その実現に向けて取り組んでいきたい。

〇専門外来を含め、小児科を維持してほしい。

⇒特殊な分野の専門医は県内でも少ないが、萩医療圏に必要であるため、引き続き維持していきたい。

問中核病院形成推進室　☎21-3120